

評価単位7「人材育成業務」における評価の基準について

中長期目標の記載		Ⅲ.4.(3) 人材育成業務 量子科学技術の推進を担う機関として、国内外の当該分野の次世代を担う人材の育成に取り組み、また、東京電力福島第一原子力発電所事故後の放射線に関する社会の関心の高まりを踏まえ、放射線に係る専門機関として、放射線防護や放射線の安全取扱い等に関係する人材や幅広く放射線の知識を国民に伝えるための人材の育成に取り組む。					
中長期計画の記載		・「第5期科学技術基本計画」に示されているように、イノベーションの芽を生み出すために、産学官の協力を得て、量子科学技術等の次世代を担う研究・技術人材の育成を実施する。	・放射線に係る専門機関として、放射線影響研究、被ばく医療研究及び線量評価研究等に関わる国内外専門人材の連携を強化し、知見や技術の継承と向上に務める。	・研修事業を通して、放射線防護や放射線の安全取扱い及び放射線事故対応や放射線利用等に関係する国内外の人材や、幅広く放射線の知識を国民に伝えるための人材の育成に取り組む。	・国際機関や大学・研究機関との協力を深めて、連携大学院制度の活用を推進する等、研究者・技術者や医療人材等も積極的に受け入れ、産学のみならずOJT等実践的な人材育成により資質の向上を図る。	・研究成果普及活動や理科教育支援等を通じて量子科学技術等に対する理解促進を図り、将来における当該分野の人材確保にも貢献する。	
年度計画の記載		・量子科学技術や放射線に係る医学分野における次世代を担う人材を育成するため、連携協定締結大学等に対する客員教員等の派遣を行うとともに、連携大学院生や実習生等の若手研究者及び技術者等を受け入れる。また、機構各部門において大学のニーズに合った人材育成を行うために、機構における受入れ等を重層的、多角的に展開する。		・引き続き放射線防護や放射線の安全取扱い等に関係する人材及び幅広く放射線の知識を国民に伝える人材等を育成するための研修を実施するとともに、社会的ニーズに応え、放射線事故等に対応する医療関係者や初動対応者に対して被ばく医療に関連する研修を実施する。		・国内外の研究機関等との協力により、研究者、技術者、医学物理士を目指す理工学系出身者を含む医療関係者等を受け入れ、実務訓練（OJT）等を通して人材の資質向上を図る。	・将来における当該分野の人材確保にも貢献するために、引き続き量子科学技術の理解促進に係る取組みを行う。
所掌省庁		文科省		規制庁		文科省	
中長期的な計画	R2年度	令和元年度の取組を継続するとともに、QSTリサーチアシスタント等の満足度調査を開始		研修事業の継続 社会のニーズに関する分析や受講者の満足度調査を継続するとともに、受講者の所属元の満足度調査を開始		令和元年度の取組を継続	
	R3年度	令和2年度の取組を継続するとともに、新たにリサーチアシスタントを対象とした人材育成を目的とし、海外での口頭発表や論文投稿等の費用を支援するための制度である「黎明的研究制度 [®] 」を開始 ※戦略的理事長ファンドとして、リサーチアシスタントの既存のアイデアに捉われない斬新な発想に基づく研究成果の発表等を支援することで、将来の量子科学技術を担う有望な人材の育成を図る目的とした新たな制度		研修事業の継続 社会のニーズに関する分析や受講者及び受講者の所属元の満足度調査を継続		令和2年度の取組を継続するとともに、受け入れ者の満足度調査を開始	
	R4年度	令和3年度の取組を継続するとともに、QSTリサーチアシスタント等の大学での指導教官の満足度調査を開始		研修事業の継続 社会のニーズに関する分析や受講者及び受講者の所属元の満足度調査を継続		令和3年度の取組を継続するとともに、受け入れ者の所属元の満足度調査を開始	
困難度（QST案）		R2年度 R3年度 R4年度					
顕著な成果となる事象（QST案）	R2年度	以下のうち、2項目を達成 ○連携大学院協定に基づくQSTの研究者が客員教員等の委嘱を受けた大学数の過去3年の平均値からの20%の増加（令和元年度18校） ○QSTリサーチアシスタントや実習生、連携大学院生の受け入れ数の過去3年の平均値からの20%の増加（令和元年度297名） ○QSTリサーチアシスタント等の満足度80%		以下のうち、4項目を達成 ○社会のニーズに関する分析結果等を基に、研修事業の新たな取組を実施 ○研修回数 ^① の過去3年の平均値からの20%の増加（令和元年度55回） ○受講者数の過去3年の平均値からの20%の増加（令和元年度延べ3,327名） ○受講者の満足度80% ○受講者の所属元の満足度80%		○受け入れ人数の過去3年の平均値からの20%の増加（令和元年度31名） ○QSTサマースクール生の受け入れ数の過去3年の平均値からの20%の増加（令和元年度82名） ○QSTサマースクール生の満足度80%	
	R3年度	以下のうち、3項目を達成 ○連携大学院協定に基づくQSTの研究者が客員教員等の委嘱を受けた大学数の過去3年の平均値からの20%の増加 ○QSTリサーチアシスタントや実習生、連携大学院生の受け入れ数の過去3年の平均値からの20%の増加 ○QSTリサーチアシスタント等の満足度80% ○QSTリサーチアシスタント制度に対する「黎明的研究制度」採択件数2件		以下のうち、4項目を達成 ○社会のニーズに関する分析結果等を基に、研修事業の新たな取組を実施 ○研修回数 ^① の過去3年の平均値からの20%の増加 ○受講者数の過去3年の平均値からの20%の増加 ○受講者の満足度80% ○受講者の所属元の満足度80%		○受け入れ人数の過去3年の平均値からの20%の増加 ○受け入れ者の満足度80% ○SSHの受け入れや出前授業の対象者数の過去3年の平均値からの20%の増加	
	R4年度	以下のうち、4項目を達成 ○連携大学院協定に基づくQSTの研究者が客員教員等の委嘱を受けた大学数の過去3年の平均値からの20%の増加 ○QSTリサーチアシスタントや実習生、連携大学院生の受け入れ数の過去3年の平均値からの20%の増加 ○QSTリサーチアシスタント等の満足度80% ○QSTリサーチアシスタント制度に対する「黎明的研究制度」採択件数3件 ○QSTリサーチアシスタント等の大学での指導教官の満足度80%		以下のうち、4項目を達成 ○社会のニーズに関する分析結果等を基に、研修事業の新たな取組を実施 ○研修回数 ^① の過去3年の平均値からの20%の増加 ○受講者数の過去3年の平均値からの20%の増加 ○受講者の満足度80% ○受講者の所属元の満足度80%		○受け入れ人数の過去3年の平均値からの20%の増加 ○受け入れ者の満足度80% ○SSHの受け入れや出前授業の対象者数の過去3年の平均値からの20%の増加 ○SSHの受け入れや出前授業の対象者の満足度80%	
特に顕著な成果となる事象（QST案）	R2年度	以下のうち、2項目を達成 ○連携大学院協定に基づくQSTの研究者が客員教員等の委嘱を受けた大学数の過去3年の平均値からの40%の増加（令和元年度18校） ○QSTリサーチアシスタントや実習生、連携大学院生の受け入れ数の前年度からの40%の増加（令和元年度297名） ○QSTリサーチアシスタント等の満足度90%		以下のうち、4項目を達成 ○社会のニーズに関する分析結果等を基に、研修事業の画期的な取組を実施 ○研修回数 ^① の過去3年の平均値からの40%の増加（令和元年度55回） ○受講者数の過去3年の平均値からの40%の増加（令和元年度延べ3,327名） ○受講者の満足度90% ○受講者の所属元の満足度90%		○受け入れ人数の過去3年の平均値からの40%の増加（令和元年度31名） ○QSTサマースクール生の受け入れ数の過去3年の平均値からの40%の増加（令和元年度82名） ○QSTサマースクール生の満足度90%	
	R3年度	以下のうち、3項目を達成 ○連携大学院協定に基づくQSTの研究者が客員教員等の委嘱を受けた大学数の過去3年の平均値からの40%の増加 ○QSTリサーチアシスタントや実習生、連携大学院生の受け入れ数の過去3年の平均値からの40%の増加 ○QSTリサーチアシスタント等の満足度90% ○QSTリサーチアシスタント制度に対する「黎明的研究制度」採択件数4件		以下のうち、4項目を達成 ○社会のニーズに関する分析結果等を基に、研修事業の画期的な取組を実施 ○研修回数 ^① の過去3年の平均値からの40%の増加 ○受講者数の過去3年の平均値からの40%の増加 ○受講者の満足度90% ○受講者の所属元の満足度90%		○受け入れ人数の過去3年の平均値からの40%の増加 ○受け入れ者の満足度90% ○SSHの受け入れや出前授業の対象者数の過去3年の平均値からの40%の増加	
	R4年度	以下のうち、4項目を達成 ○連携大学院協定に基づくQSTの研究者が客員教員等の委嘱を受けた大学数の過去3年の平均値からの40%の増加 ○QSTリサーチアシスタントや実習生、連携大学院生の受け入れ数の過去3年の平均値からの40%の増加 ○QSTリサーチアシスタント等の満足度90% ○QSTリサーチアシスタント制度に対する「黎明的研究制度」採択件数5件 ○QSTサマースクール生やQSTリサーチアシスタント等の大学での指導教官の満足度90%		以下のうち、4項目を達成 ○社会のニーズに関する分析結果等を基に、研修事業の画期的な取組を実施 ○研修回数 ^① の過去3年の平均値からの40%の増加 ○受講者数の過去3年の平均値からの40%の増加 ○受講者の満足度90% ○受講者の所属元の満足度90%		○受け入れ人数の過去3年の平均値からの40%の増加 ○受け入れ者の満足度90% ○SSHの受け入れや出前授業の対象者数の過去3年の平均値からの40%の増加 ○SSHの受け入れや出前授業の対象者の満足度90%	